

登録コード:MH662101 開講年度:2026		授業科目区分	講義
科目名	教育学概論【理作20M以降】 Pedagogy		
担当教員	荒井 英治郎		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	理学療法学専攻・作業療法学専攻 / 1 年 前期 火曜・2 時限		
単位数、講義室	2 単位	共通教育 1 3 講義室	遠隔授業科目
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		授業の達成目標
	MH25カリ・保健・理学, MH25カリ・保健・作業, MH23カリ・保健・理学, MH23カリ・保健・作業		
	基礎的・専門的な知識と技能 保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。		教育学理論・研究の知見を活用して、自分自身が受けてきた教育経験の相対化を行う
	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。		教育学理論・研究の知見を活用して、自分自身が受けてきた教育経験の相対化を行う
授業で学べる「テーマ」	キャリア		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	本授業では、教育の原理を基盤として、人間形成における教育の機能について理解を深める。特に、望ましい人間形成のあり方や人間の可能性を引き出すための教育の方法を学習することを通じて、主体的に学習する基盤を構築していくことを企図する。具体的には、「教育とは何か」、「人間にとって教育とはいかなる意義を有しているのか」といった教育の本質に迫る問いに対峙していくとともに、教育学に関する基礎的知識を習得し、現代教育改革の理論（理念）と実際（現実）を読み解く資質を修得することに努める。		
授業計画	第1回：教育の概念・機能・理念（人間とは何か、教育とは何か、ヒトとモノの違い） 第2回：教育の概念・機能・理念（教育の社会的機能と現代教育の問題状況） 第3回：教育の概念・機能・理念（遺伝、発達、成長、文化、システムとしての教育） 第4回：教育と家庭教育・社会教育・生涯学習（学校教育、家庭教育、社会教育、生涯学習との関係） 第5回：教育の目的（学校とは何か、教育基本法、学校教育法、学習指導要領、教育の内容、学習指導、授業の構造・内容・方法） 第6回：教育の歴史（前近代・近代の学校と教育） 第7回：教育の歴史（戦時下・戦後の学校と教育、学校教育の特質と社会的機能） 第8回：教育と社会（教育と人間形成・成長、教育と「社会化」） 第9回：教育と社会（生涯学習社会、学校教育の意味と役割） 第10回：現代教育改革の諸動向（教育基本法の改正、学校教育法の改正等） 第11回：現代教育改革の諸動向（各種審議会の改革案の内容・特徴・影響） 第12回：現代教育改革の諸動向（学習指導要領の改訂と「生きる力」） 第13回：日本の教育制度の課題（教育改革、地方分権・規制緩和など） 第14回：日本の教育制度の課題（子どもの権利条約など） 第15回：今後の学校教育の展望と課題（教育の失敗と成功）		
授業の進め方	授業は、教員による講義を基本とするが、履修者は、積極的に発言するなど、主体的に授業に参加することを望む。 初回授業では、授業計画・概要、授業方法と評価に関する説明を行うため、履修予定者は、必ず出席すること。 毎授業前にレジュメ等をアップロードする。履修者は必要に応じて各自ダウンロード・プリントアウトして授業に参加すること。 なお、必要に応じて、ビデオ・DVDなどの視聴覚教材を活用する。		
テキスト、教材、参考書	伊藤良高・岡田愛・荒井英治郎編『教育と教職のフロンティア』晃洋書房、2021年、1700円 教育フロンティア研究会編、『ポケット教育小六法』晃洋書房、2021年、1300円		
成績評価の方法	授業中の発言や態度、毎授業提出してもらう「リアクションペーパー」等の平常点（5割）、学期末レポート（5割）などから総合的に評価する。詳しくは、初回授業時に説明する。		
成績評価の基準	授業で学習した教育学理論・研究の知見を活用することができているか、自分自身が受けてきた教育経験を相対化することができているか、自分自身の考えや今後の展望を具体的に論じることができるかどうか。 からのうち、全て満たしていたら、「卓越している」ないし「かなり上にある」、からのうち2項目を満たしていれば「やや上にある」、1項目を満たしていれば「水準にある」。		
事前事後学習の内容	- 指定テキストの該当ページの熟読（ガイダンス時及び毎授業時に該当ページを指示） - グループ内でのディスカッションのための論点整理メモの作成 - グループ間でのディスカッションのためのプレゼンテーション準備 - グループ間でのディスカッションを踏まえた上での考察レポートの作成		

事前事後学習の内容	などを含めて、時間外学習が必要となります。 本授業の単位修得には、90 時間の学習が必要です。 授業時間 30 時間（2時間×15回）+ 自己学習時間60時間（4時間×15 回）= 90時間
学生へのメッセージ並びに質問 ，相談への対応	簡単な質問については講義中に随時受け付け、講義中・講義後・次回授業時に説明を行う。 その他、初回授業時に伝えるメールアドレスにて随時質問を受け付けるものとする。